



ぽっぽ通信



熱性けいれん

けいれんの原因は様々ですが、乳幼児期一番多いのが熱性けいれんです。

こどもが初めてけいれんを起こしたとき、親御さんもとてま驚かれるでしょうし、不安や恐怖を感じると思います。

実際けいれんを起こした場合どのような対応をすれば良いのか、知っておけば不安も少し和らぎます。

まず一番大切なことは、けいれんを起こした時に、物でけがをしたり、入浴中やプールでおぼれるなど発作によって引き起こされる事故を防ぐことです。まず水から離れた安全な場所へ。おもちゃやコップ家具などが周りにない場所へなど環境を整えます。

またけいれんの際は吐物による窒息を予防することも大切です。ズボンの腹部をゆるめ、息のしやすい楽な体勢(図1)にします。

図1



抱っこをしたり、大声で声かけしたり揺さぶったりすることは発作を増悪させるため避けましょう。

けいれんを起こした時、すぐに救急車を要請しないとイケないわけではありません。5分以内で自然と治まる様なけいれんでは、夜間の病院を受診。または翌朝早めの受診でかまいません。

Q.どんな時に救急車を呼べば良いの？

A.5分以上続くけいれん、または一端止まったけいれんが再発した場合です。(発作が止まったとは、きちんと目が合い、呼びかけへの反応があることです。)

病院を受診した際には、すでにけいれんは止まっていることがほとんどです。そのため医療者はけいれん時の様子を直接見る事ができませんので、保護者の方からのけいれん時の情報がその後の対応に影響する場合があります。

けいれんが起きた時、

- そのとき熱はありましたか？
- どれぐらいの時間続きましたか？
- 発作の時、手足はがくがくしているor突っ張っていましたか？

- 発作の時は手足の動きに左右差はありましたか？
- 発作が終わった時、すぐに意思疎通できましたか？しばらくしたら目も合っていましたか？

このことは受診した際に、情報としてあると様子が伝わりやすくなります。また、手元に携帯がある場合は動画撮影して見せてもらえる とよりはっきりと伝わりやすくなります。

不安なことも、少し知識があれば落ち着いて対応出来ます。何かありましたら、いつでもご相談下さい◎

予防接種でお越しの方へ

問診票は正確にご記入ください。特に、年齢(月齢も)、当日の体調、1カ月以内に受けた予防接種など、間違っていたり記載が抜けていたりします。正確に記入されていないと誤接種になりますのでよろしくお願い致します。

院長のつぶやき

雨の多い日が続きますね。

科学的に証明されてはいませんが、梅雨前線が北上してくる梅雨や台風(低気圧)が来ると、喘息の患者さんが増えることを小児科の先生は経験しています。

強い発作や咳が長引く傾向がありますので、喘息を持っているお子さんと、夜間、朝方の咳が出始めた場合は早めに受診するようにしましょう。

また、予防薬や吸入の再開を検討したほうがよい場合もありますので、受診時に相談してください。



便秘

これからますます、暑い日がやってきます。近頃、こどもの便秘は増加傾向にある様です。食生活含めて生活習慣の変化なども関係がありますが、季節的に暑い夏は便秘の受診も増えてきます

- 毎日出る便が数日でない。
- お腹が苦しく食欲がなくなる。
- 便意はあり息むのに出ない。
- うんちが固くて、おしりが痛い、出血する。

など、排便困難感がある際はご相談ください。一時的な便秘でも、小さなこどもさんは、排便時の疼痛が怖くなり、排便を我慢するようになっていくことがあります。

また便秘が続くと、つねに直腸が広がっている状態となり、それが長期間続くと慢性の便秘症になっていきます。

気になる症状があれば、受診の際にいつでもご相談ください。

登園許可書や、アレルギー診断書などの書類には、あらかじめ氏名を記入し、受付に出していただけますようお願い致します。

休日当番日のお知らせ😊

6月16日	わたこどもクリニック
6月23日	わかやまこどもクリニック
6月30日	たまい小児科
7月7日	岩永こどもクリニック